

# 「家がいいね」 第244号

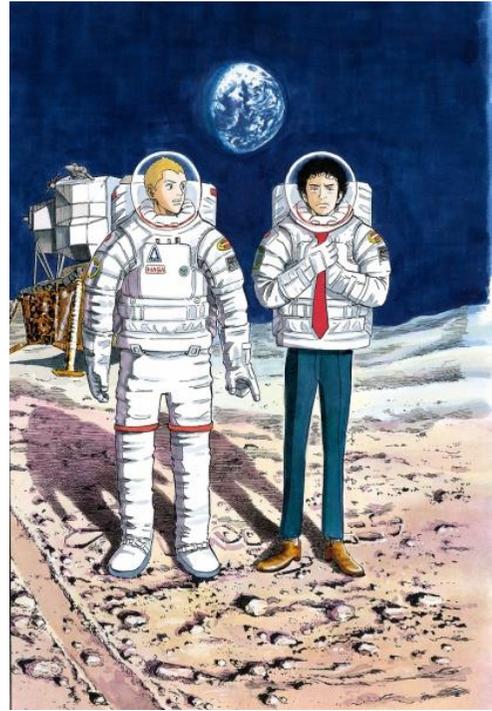
いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2024.9.2



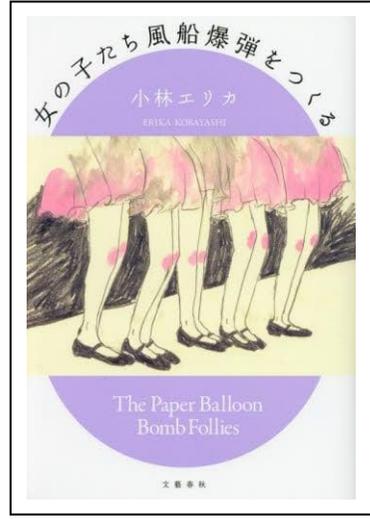
百日紅(サルズベリ)は日照りに強い花。今年の長期間の熱射にも耐えていました。迷走台風からの雨風にも我慢の形です。気持ちも切替えの、9月になりました。

楽しいという気持ちが必要だ



5月の患者会で、神経内科医から「宇宙兄弟」を紹介された。筋萎縮側索硬化症ALSとの関連に興味の余り、漫画に熱中し寝不足になりました。小学生兄弟に夜空を見る楽しさを教えた女性の天文学者シャロン金子さんが二人の成長後に発症するのです。漫画は丁寧調べ真面目な画風です。小学生が「役に立たない人間」の英訳を教えて、と尋ねた時、its a piece of cake(俗語で「楽勝さ」と答えました。子どもの将来を考えて、種まきをしたことが、患者のシャロンさんに還ってきます。宇宙飛行士で月を目指す二人は、破天荒の経験を積み重ねます。不思議にALS患者さんも重力(筋力)に悩み、会話の意思疎通に迷い進みます。でも呼吸器は宇宙服の呼吸確保に例えられ、身体機能の維持は、飛行士のミッションの支援体制にも似て、安全な遂行可能が心配りされる方向です。兄弟は困難な時も、初心の楽しさを思い出す。宇宙は光に満ち、人の心は、音「楽」に満ちると。

「軍国少女」だった女の子たちの物語を 今!



この物語は昭和十年(1935)から二十年(1945)にわたる。東京宝塚劇場を軍需工場に転用し、米本土攻撃用の巨大風船を作り続けた。この物語の主語は、4歳時の「わたし」で語られ始める。「わたしたちは」特定の少女で、〇〇でもあり、〇〇でもない各個人の説明は多岐にわたる。が「わたしたちの」は所属する全てに付け語られます。わたしたちの天皇陛下、わたしたちの兵隊さん、と。虐げられる場面でも「わたしたちの××」が主語なのです。軍管理で和紙をコンニャク糊で複雑に貼り合わせる作業は厳しい。何のためにするか知らされず昼夜兼行だった。戦争末期に9千個が放たれ、偏西風に乗って米本土に千個が到着したが米国も報道規制。片田舎で、子ども5人を含む家族が犠牲になった。戦後に、この事実を知った「わたしたち」が自分たちが武器を作っていた責任を、我が身の問題として、考え謝罪する所まで、この本は読み進めていただきました。

新聞もTVもインターネットも、事件や災害(地震・台風)の情報を、繰り返し告げる時代。「わたし」が誘導された私でないことを、どう確認したらいいのか、この私も迷った。

休診日についてお願い

月曜の祝日が多く、予約の遣り繰りで迷惑をおかけします。

10月25日(金)

10月26日(土)は、

遠藤が出張で外来は休診です。在宅は大久保が担当いたします。

子どもは同じ仕事を自然にしますね。



自宅での人生を 最期まで支援します

〒516-0805 三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105

メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
<https://isezaitaku.com>

→バックナンバー閲覧可

